

Genie®

操作説明書

メンテナンス情報付属

First Edition
Seventh Printing
Part No. 52546JA

GS™-2668 DC
GS™-3268 DC

重要

本機械を操作する前に、操作説明書の中の安全規則と操作指示をよく読み、理解し、従ってください。トレーニングを受け認定された担当者のみが、機械を操作することを許可されます。本説明書は機械の一部とみなされ、必ず機械と一緒に置かれていなければなりません。質問がございましたら Genie Industries までご連絡ください。

目次

ページ
安全規則 1
説明 8
操作パネル 9
操作前の点検 11
メンテナンス 13
機能テスト 15
作業場の点検 18
操作手順 19
輸送手順 23
ステッカー 24
仕様 26

お問合せ先：

インターネット：http://www.genielift.com
電子メール：techpub@genieind.com

Copyright © 1999 Genie Industries

第 1 版：第 7 刷 2013 年 9 月

「Genie」は米国およびその他の国における Genie Industries の登録商標です。「GS」は Genie Industries の商標です。

♻ 再生紙使用 L

Printed in U.S.A.

安全規則



危険

本説明書の操作指示と安全規則に従わなかった場合、重傷または死に至ることがあります。

操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

次のセクションに進む前に、安全規則を承知し理解してください。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

☑ 下記をよく読み、理解し、その指示に従います。

製品使用説明書と安全規則 - 安全マニュアルおよび操作説明書と機械ステッカー

従業員の安全規則と作業場所の規制

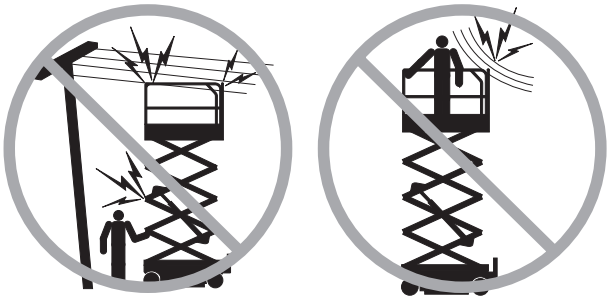
適合する法規

☑ 使用者は安全に機械操作を行うための適切なトレーニングを受ける。

安全規則

感電の危険

この機械は**絶縁されていないため**、電流に接触したり、近接すると**危険です**。



適合する法規および次の表に従って、電線や電気装置から安全な距離を保ってください。

電圧範囲	**最小安全最短距離メートル**
0 ～ 300V	接触を避ける
300V ～ 50KV	3.05
50KV ～ 200KV	4.60
200KV ～ 350KV	6.10
350KV ～ 500KV	7.62
500KV ～ 750KV	10.67
750KV ～ 1,000KV	13.72

作業台の動きや電線の揺れやたるみを考慮し、強風および突風に注意してください。

通電している電線に機械が接触している場合は、機械に近づかないでください。地上もしくは作業台の従業員は、電線の電気が遮断されるまで、絶対に機械に触れたり操作したりしないでください。

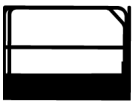
雷や暴風などの悪天候下では、機械を操作しないでください。

溶接するときに、機械をアースとして使用しないでください。

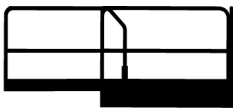
転倒の危険

作業員と装備品は、作業台最大積載荷重量または作業台延長時の最大積載荷重量を超えてはなりません。

最大積載重量 - GS-2668DC	
収縮された作業台	567 kg
作業台延長時 - 作業台のみ	431 kg
作業台延長時 - 延長台のみ	136 kg
最大定員 - ANSI および CSA	4
最大定員 - CE	
野外使用	4
屋内使用のみ	4



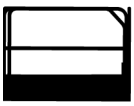
567 kg



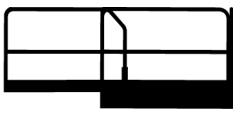
延長台のみ
136 kg

作業台のみ
431 kg

最大積載重量 - GS-3268DC	
収縮された作業台	454 kg
作業台延長時 - 作業台のみ	318 kg
作業台延長時 - 延長台のみ	136 kg
最大定員 - ANSI および CSA	4
最大定員 - CE	
野外使用	2
屋内使用のみ	4



454 kg



延長台のみ
136 kg

作業台のみ
318 kg

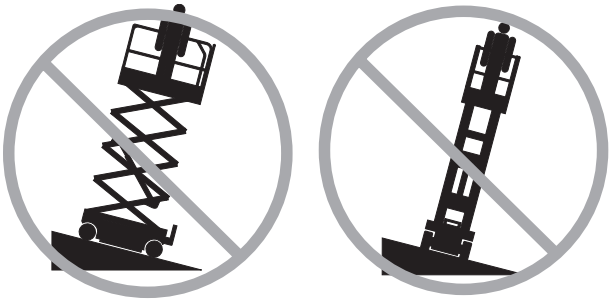
リミット スイッチを改造したり、使用不能な状態にしないでください。

作業台を上げたままの状態で時速 0.8 km 以上で走行しないでください。

水平位置の指標として傾斜アラームに依存しないでください。傾斜アラームは、機械が急な斜面上にある場合にシャーシおよび作業台内で鳴ります。

傾斜アラームが鳴った場合は、次の操作を行います。作業台を下げます。機械を安定した平坦な地面に移動します。作業台が上がっている状態で傾斜アラームが鳴った場合、細心の注意を払って作業台を下げてください。

機械がしっかりとした平坦な地面に設置されている場合以外は、作業台を上昇させないでください。

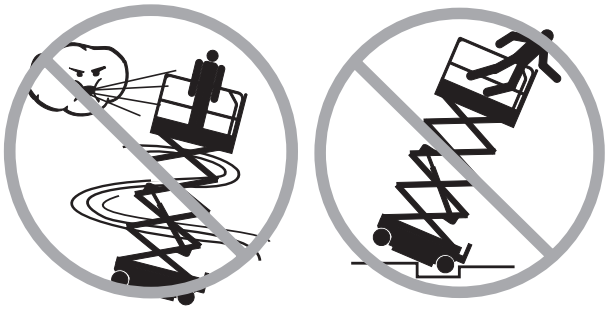


近くの構造物に挟まったり、引っ掛かったりして、通常の運行を妨げられている作業台を、作業台操作を使用して解放しようとしないでください。作業員が作業台から降りてから、地上操作を使用して作業台を解放してください。

機械の部品を改造したり、使用不能な状態にしないでください。機械の安全性と安定性に影響します。

機械の安定性に影響する部品を、重量や仕様の異なるものと取り替えないでください。

強風や突風の状況で機械を操作しないでください。作業台や積荷の表面積を大きくしないでください。風にあたる面積が増えるにつれて機械の安定性が低下します。



水平でない不安定な地面やその他の危険な状況では、作業台を上昇させて機械を走行させないでください。

収納した状態で、平らでない、障害物のある、不安定な場所、また滑りやすい場所を機械を走行しているとき、あるいはくぼみや急に低くなっている近辺で機械を走行しているときは、細心の注意を払うとともに、機械を減速してください。

作業台の外にある物体を押したり、引っ張ったりしないでください。

GS-2668DC	
ANSI および CSA - 4 名	890 N
CE - 屋内使用のみ - 4 名	400 N
CE - 屋外使用のみ - 4 名	400 N
GS-3268DC	
ANSI および CSA - 4 名	890 N
CE - 屋内使用のみ - 4 名	400 N
CE - 屋外使用のみ - 2 名	400 N



安全規則

高所作業台を変更したり改造しないでください。工具や他の機材を収納するためのアタッチメントを作業台、踏み板、もしくは手摺りに取り付けると、作業台の重量および作業台や積荷の表面積を増大させます。

機械から荷物をぶら下げたり、取り付けたりしないでください。



はしごや足場を作業台に設置しないでください。また、本機械のどの部分にも立てかけないでください。

移動中または移動する可能性のある表面、もしくは車両上で機械を使用しないでください。

タイヤはすべて良好な状態にあり、みぞ付きナットが適切に締められ、ロックプレートが適切に設置されていることを確認してください。

機械をクレーンとして使用しないでください。

作業台を使って機械や他の物体を押さないでください。

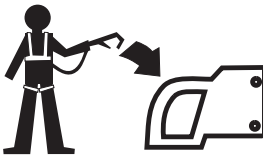
作業台を近辺の建造物に接触させないでください。

作業台を近辺の建造物につながないでください。

作業台の周囲から荷物が突き出ないようにしてください。

工場出荷時に機械に搭載されているバッテリーより軽いバッテリーを使用しないでください。バッテリーは釣合いおもりとして使用されており、機械の安定性に不可欠です。バッテリーの重量はそれぞれ 29.5 kg です。

落下の危険



作業員は安全ベルトやハーネスを着用し、適用される法規に従わなければなりません。荷締めを作業台の錨に取り付けてください。

作業台の手摺りの上に座ったり、立ったり、登ったりしないでください。作業台の上では常にしっかりとした足場を確保してください。



作業台が上がっている状態で、作業台から降りないでください。

作業台の床面は、常にきれいにしておいてください。

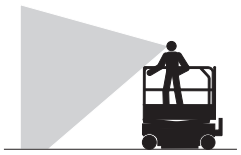
ゲートが開いている場合は、ゲートを閉じてください。

手摺りがしっかりと設置され、出入口がしっかりと閉められるまでは、機械を操作しないでください。

人体への傷害の危険

作動油や空気が漏れている状態で機械を操作しないでください。空気や作動油が漏れると、皮膚に染み込んだり、やけどを負う原因となります。

衝突の危険



走行中または操作中は、視界の限度および死角に注意してください。

機械を移動する際は延長作業台の位置に注意してください。

ブレーキを解除する場合は、機械が水平な地面に止められているか、もしくは固定されていなければなりません。

機械の操作時に従業員は認可されたヘルメットを着用してください。

作業場において、頭上に障害物もしくは他に危険なものがないことを確認してください。



作業台の手摺りにつかまっているときは、手にケガをしないよう注意してください。

作業台操作の色別方向矢印および走行とステアリング機能用の作業台ステッカープレートをよく見て、使用してください。

頭上で作動中の機械あるいはクレーンの軌道上においては、クレーンの制御がロックされ、さらに衝突を防ぐための予防措置がとられていない限り、機械を操作しないでください。

機械の操作時は、危険な走行や乱暴な運転をしないでください。

作業台を下げるときは、必ず作業台の下に人がいないこと、また障害物になるものがないことを確かめてから行ってください。



地面の状態、周囲の混雑具合、傾斜、人の位置、およびその他の追突の要因となるものに従って、走行速度を制限してください。

部品の損傷の危険

溶接するときに機械をアースとして使用しないでください。

爆発と火災の危険

危険な場所、あるいは可燃性または爆発性のガスもしくは微粒子が存在する場所では、機械を操作しないでください。

安全規則

機械故障の危険

損傷もしくは故障している機械は使用しないでください。

作業シフトの前に、機械の操作前の点検を完全に行い、すべての機能をテストしてください。損傷もしくは故障している機械は、直ちに故障の貼り紙を付けて、作業を中止してください。

本説明書とサービスマニュアルに記載されているすべてのメンテナンスを必ず行ってください。

すべてのステッカーが適切な位置にあり、文字が読める状態であることを確認してください。

オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、文字が読める状態で、作業台の保管場所に保管されていることを確認してください。

挟まる危険

手や腕をシザーズに近づけないでください。

地上からコントローラを使って機械を操作する際は、常識的な判断をもって行ってください。オペレータ、機械、固定物との間には安全な距離を保ってください。

固定ピンを取り外すときは、作業台の手摺りをしっかりと支えてください。作業台の手摺りが落ちないようにしてください。

ステッカーの説明

Genie製品ステッカーは、識別しやすいよう、下記のようなシンボル、色別コード、および注意喚起語を使用しています。



安全警報シンボル-作業員にケガの危険があることを知らせます。ケガや死亡の危険を避けるために、このシンボルの安全警告に従ってください。

⚠ 危 険 赤 - 差し迫った危険があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至ることがあります。

⚠ 警 告 オレンジ–危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は重傷または死に至る可能性があります。

⚠ 要注意 安全上の警告シンボルを伴った黄色 - 危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は小さなケガから中程度のケガを負うことがあります。

要注意 安全上の警告シンボルがない黄色 - 危険な状況になる可能性があることを示します。この危険を回避しない場合は機械が故障することがあります。

注 意 緑 - 操作方法またはメンテナンスに関する情報を示します。

バッテリーの安全管理

やけどの危険

バッテリーには酸が入っています。バッテリーに作業を行うときは、常に保護服と保護メガネを着用してください。





バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れたりしないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

充電中はバッテリーまたは充電器を水や雨にさらさないでください。

爆発の危険



火花、炎、火のついたタバコなどをバッテリーに近づけないでください。バッテリーは爆発性ガスを放出します。

バッテリートレイは、充電のすべてのサイクルが終了するまで開いたままの状態にしてください。

バッテリー端子またはケーブル用クランプに金属製の工具で触れると火花を発することがあります。工具を使用するときは、接触させないように注意してください。

部品損傷の危険

バッテリーの充電には、48V 以上の充電器を使用しないでください。

感電の危険



充電器は、接地されている AC 3 ピン電気コンセントにのみ接続してください。

コード、ケーブルおよび配線の損傷を毎日点検してください。破損している部品は操作する前に取り替えてください。

バッテリー端末への接触による感電に注意してください。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

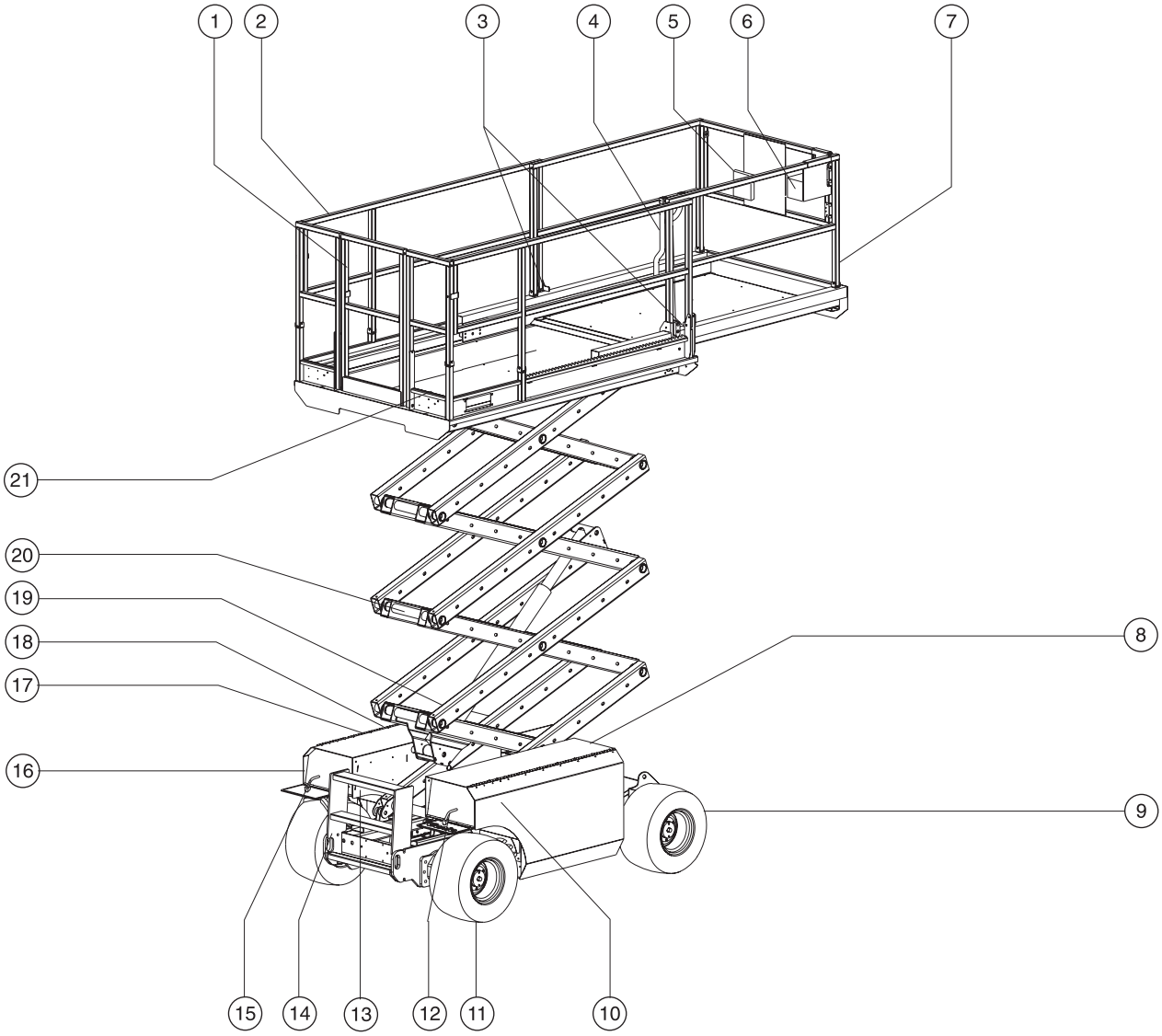
転倒の危険

工場出荷時に機械に搭載されているバッテリーより軽いバッテリーを使用しないでください。バッテリーは釣合いおもりとして使用されており、機械の安定性に不可欠です。バッテリーの重量はそれぞれ 29.5 kg です。

持ち上げ時の危険

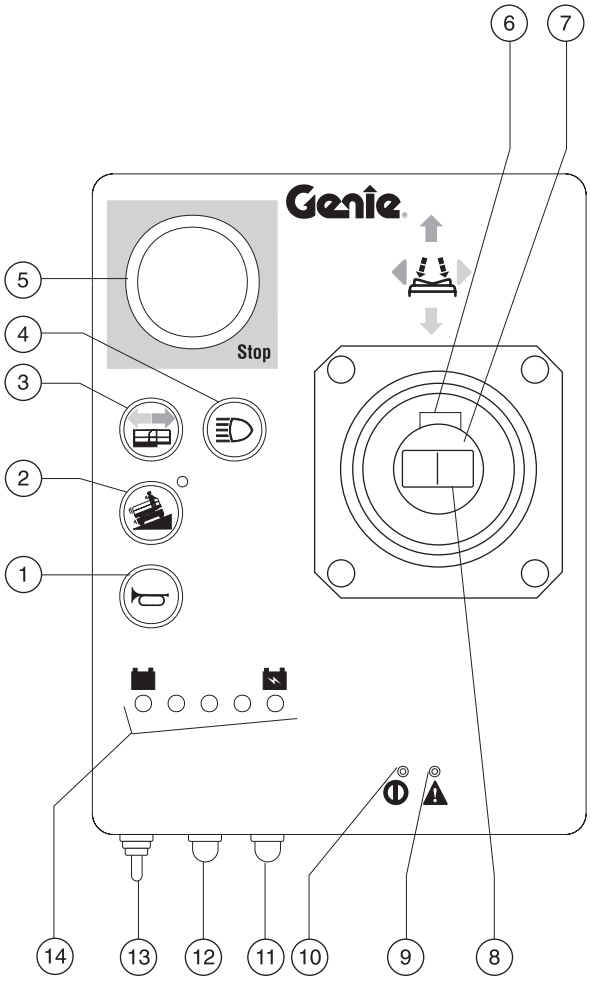
バッテリーを持ち上げるときは、適切な人数と手段で行ってください。

説明



1 作業台出入口ゲート
2 作業台手摺り
3 安全帯固定場所
4 作業台延長部ロック ハンドル（手動での作業台延長時のみ）
5 マニュアル保管場所
6 作業台操作パネル
7 作業台延長部
8 バッテリー側面カバー
9 ステアリング タイヤ
10 バッテリー充電器（カバー内側）
11 非ステアリング タイヤ
12 充電器ピグテールへの電力
13 傾斜アラーム（カバー内側）
14 出入口はしご/輸送の荷締め
15 作業台ピグテールへの電力
16 手動下降バルブおよび LED 診断計測値の機能を搭載する地上操作パネル
17 地上操作パネル側面カバー
18 作動油量表示ランプ（カバー内側）
19 ブレーキ解除ポンプノブおよびブレーキ解除ノブ（この図では隠れて見えません）
20 安全アーム
21 GFCI コンセント

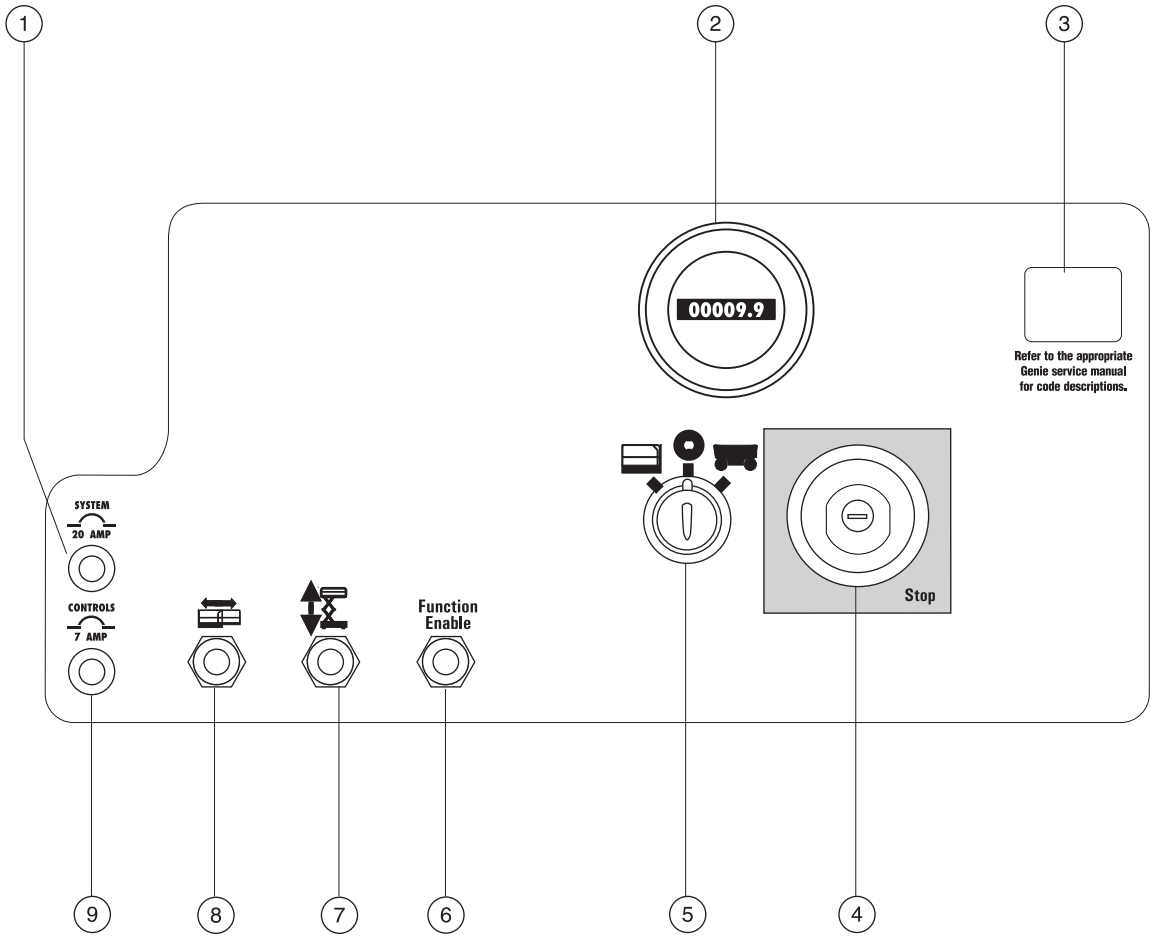
操作パネル



作業台操作

1 ホーンボタン
2 傾斜ボタンのついている機械：傾斜に備えた低速度操作
3 作業台延長/収縮作動ボタン（オプション）
4 ヘッドライト/テールライトボタン（オプション）
5 赤色非常停止ボタン
6 機能作動スイッチ
7 走行機能用比例コントロールハンドルとオプションの作業台延長/収縮機能
8 ステアリング機能用サム ロッカー スイッチ
9 エラー表示ランプ
10 電源ランプ
11 上昇/下降機能用機能作動/高速選択ボタン
12 上昇/下降機能用機能作動/低速選択ボタン
13 作業台上昇/下降選択スイッチ
14 バッテリー レベル表示器

操作パネル



地上操作パネル

1 システム回路用 20A 回路ブレーカー
2 時間計
3 LED 診断計測値
4 赤色非常停止ボタン
5 作業台/OFF（オフ）/地上操作選択用キースイッチ
6 機能作動トグル スイッチ
7 作業台上昇/下降トグル スイッチ
8 作業台延長/収縮トグル スイッチ（オプション）
9 操作回路用 7A 回路ブレーカー

操作前の点検



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 常に操作前の点検を行う。

次のセクションに進む前に、操作前の点検についてよく理解してください。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

操作前の点検と規定メンテナンスはオペレータが責任をもって行ってください。

操作前の点検とは、シフトの前にオペレータが行う目視点検です。この点検は、オペレータが機能テストを行う前に、目で点検して異常な箇所を見つけることを目的としています。

さらに操作前の点検によって、メンテナンスが必要かどうかを決めます。オペレータは、本説明書で指定されている規定メンテナンス項目のみを行ってください。

次ページのリストで、部品が変更されていないか、損傷部品や緩んでいたり欠けている部品がないかをチェックしてください。

故障もしくは改造した機械は決して使用しないでください。もし、損傷もしくは工場出荷時の状態から何らかの異変が発見されたら、機械に故障中の貼り紙をつけて使用を停止してください。

機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づいて行ってください。修理が終了後、オペレータは機能テストに移る前に再度操作前の点検を行ってください。

定期保守点検は、認定を受けたサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載されている要項に基づいて行ってください。

操作前の点検

- ❏ オペレータの安全と責任に関するマニュアルが完備され、文字が読める状態で、作業台の保管場所に保管されていることを確認します。
- ❏ すべてのステッカーが、文字が読める状態で所定の位置にあるかを確認します。「ステッカー」のセクションを参照してください。
- ❏ 作動油の漏れがなく、量が適当であることをチェックしてください。必要に応じてオイルを補充してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。
- ❏ バッテリー液の漏れがないか、量が適当かどうかをチェックします。必要に応じて蒸留水を補充してください。「メンテナンス」のセクションを参照してください。

以下の部品もしくは部分が損傷していたり、変更されていないか、きちんと設置されていなかったり、なくなっている部品がないかをチェックします。

- ❏ 電気部品、配線、電気ケーブル
- ❏ 油圧ユニット、タンク、ホース、接続金具、シリンダー、マニホールド
- ❏ バッテリーパックと電源の接続
- ❏ 駆動モーター
- ❏ 磨耗板
- ❏ タイヤとホイール
- ❏ リミット スイッチ、アラームと警報
- ❏ ナット、ボルト、他の締め具
- ❏ 作業台出入口ゲート
- ❏ ビーコンと警報（搭載する場合）
- ❏ ブレーキ解除の部品
- ❏ 安全アーム
- ❏ 作業台延長部
- ❏ シザースピンと固定ファスナー
- ❏ 作業台操作ジョイスティック
- ❏ 変換器（搭載されている場合）

機械全体に対して下記をチェックします。

- ❏ 溶接や機械部品の割れ
- ❏ 機械のへこみと故障

- ❏ 機械を構成するどの部品も欠けておらず、適切なファスナーやピンが正しい位置にしっかりと締められた状態になっていることを確認します。
- ❏ 側面レールが設置され、スナップピンとボルトが締まっている。
- ❏ シャーシ台が正しい位置に設置され、ラッチで留められ、適切に接続されていること。

メンテナンス



必ず以下に従うこと。

☑ オペレータは、本説明書に記載してある規定メンテナンス項目のみを行います。

☑ 定期保守点検は、認定されているサービス担当者が製品仕様と責務マニュアルに記載している要項に基づいて行ってください。

メンテナンス記号の説明

注 意 以下の記号は、指示の目的をわかりやすくするために使用されています。メンテナンス手順の最初に記載されている記号は、次のような意味を表しています。

この手順を行うために、工具が必要です。

この手順を行うために、新たな部品が必要です。

作動油量の点検

作動油量を適切なレベルにしておくことは機械操作にとって非常に重要です。作動油量が適切でない場合、油圧部品が損傷することがあります。点検担当者は、毎日チェックすることにより、作動油量の変化に気付き、油圧システムでの問題を早期に発見することができます。

注 意 作業台を格納した状態でこの作業を行ってください。

1 油圧タンク側面にある表示計を目視点検します。

⊙ 結果：作動油量は表示計の上から 5 センチ内にしなければいけません。

2 必要に応じてオイルを追加します。このときに入れすぎないようにしてください。

作動油の仕様

作動油タイプ	Dexron に相当する作動油

メンテナンス

バッテリーの点検

エンジンの性能を保ち機械を安全に操作するには、バッテリーが適切な状態であることが重要です。液量が適切でなかったり、ケーブルまたは接続が損傷していると、エンジン部品の故障につながり危険な状態を招くおそれがあります。

注 意 密封型またはメンテナンス不要のバッテリーを搭載する機械では、この手順は必要ありません。

⚠ 警 告 感電の危険。熱くなっている回路や通電している回路に触れると、重傷を負ったり死に至ることがあります。指輪、時計などの装身具をすべて外してください。

⚠ 警 告 人体への障害の危険。バッテリーには酸が入っています。バッテリーの酸をこぼしたり酸に触れたりしないようにしてください。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

注 意 このテストはバッテリーを完全に充電した後に行ってください。

1 保護服と保護メガネを着用してください。

2 バッテリーケーブルの接続部分が腐食していないことを確認します。

3 バッテリーの装着およびケーブルの接続がきちんとなされていることを確認します。

4 バッテリー通気孔のキャップを外します。

5 各バッテリーの酸の量を確認します。必要に応じてバッテリー チューブの底に蒸留水を補給します。このときに入れすぎないようにしてください。

6 バッテリー通気孔のキャップを取り付け直します。

注 意 端子プロテクターや腐食防止シーリング剤を使用することによって、バッテリー端子やケーブルの腐食を防止することができます。

定期保守点検

四半期ごと、1 年ごと、2 年ごとに行われる保守点検は、本装置のメンテナンストレーニングを受け認定されている担当者が、本装置のサービスマニュアルの手順に従って行わなければなりません。

3 ヶ月以上使用されていない機械は、再び使用する前に必ず四半期点検を行う必要があります。

機能テスト

操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に常に機能テストを行う。

次のセクションに進む前に、機能テストについてよく理解してください。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

機能テストは、機械を使用する前に故障を見つけることを目的としています。オペレータは、指示された手順に従ってすべての機能をテストしてください。

故障している機械は決して使用しないでください。故障が見つかった場合は、故障の貼り紙を付けて作業を中止してください。機械の修理は、認定を受けたサービス担当者のみが製品仕様に基づいて行ってください。

修理が終了後、オペレータは機械を使用する前に、操作前の点検と機能テストを再度実行してください。

1 テストを行う場所として、障害物がなく、安定した水平な場所を選びます。

2 バッテリーパックが接続されていることを確認します。

地上操作

3 作業台と地上にある両方の赤色非常停止ボタンを引いて ON（オン）にします。

4 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

5 診断 LED の計測値を確認します。

⊙ 結果：LED は右の図のように表示されているはずです。



非常停止のテスト

6 地上操作の赤色非常停止ボタンを押して OFF（オフ）にします。

⊙ 結果：機能は何も作動しません。

7 赤色非常停止ボタンを引いて ON（オン）にします。

上昇/下降機能のテスト

下降アラームおよび作動アラームは、シャーシで毎分 60 回のビープ音を鳴らします。機械が水平でないことを警告するアラームは、シャーシと作業台で毎分 180 回のビープ音を発します。

8 機能作動スイッチをいずれかの側に押したままにし、作業台上昇機能を有効にしてはいけません。

⊙ 結果：機能は何も作動しません。

9 機能作動スイッチをいずれかの側に押したままにし、作業台上昇機能を有効にします。

⊙ 結果：作業台が上昇します。

10 機能作動スイッチをいずれかの側に押したままにし、作業台下降機能を有効にします。

⊙ 結果：作業台が下降します。作業台が下降しているときには下降アラームが鳴ります。

機能テスト

手動降下のテスト

11 機能作動スイッチをいずれかの側に押したままにし、作業台上昇機能を有効にし、作業台を約 60 cm 上昇させます。

12 手動下降ノブを引くか、もしくは地上操作の隣にある手動下降ボタンを押します。

⊙ 結果：作業台が下降します。下降アラームは鳴りません。

13 キースイッチを回して作業台操作に切り替えます。

作業台操作

非常停止のテスト

14 作業台の赤色非常停止ボタンを押して OFF（オフ）にします。

⊙ 結果：機能は何も作動しません。

15 赤色非常停止ボタンを引いて ON（オン）にします。

⊙ 結果：緑色の電源ランプが点灯します。

警報のテスト

16 ホーンボタンを押します。

⊙ 結果：ホーンが鳴ります。

上昇/下降機能と機能作動のテスト

17 作業台上昇機能を作動させます。

⊙ 結果：作業台は上昇しません。

18 機能作動/速度選択ボタンを押したままにします。

19 作業台上昇機能を作動させます。

⊙ 結果：作業台が上昇します。

20 機能作動ボタンを解除します。

⊙ 結果：作業台の上昇が止まります。

21 機能作動/速度選択ボタンを押したままにします。作業台下降機能を作動させます。

⊙ 結果：作業台が下降します。作業台が下降しているときには下降アラームが鳴ります。

ステアリングのテスト

注記：ステアリングと走行機能テストを実施する際、作業台上で機械のステアリング側に向かって立ってください。

22 機能作動スイッチを押したままにします。

23 コントロール ハンドルの上部にあるサム ロッカー スイッチを、操作パネルの青い三角の示す方向に押し下げます。

⊙ 結果：ステアリング ホイールが操作パネル上の青い三角が示す方向に回ります。

24 サム ロッカー スイッチを、操作パネルの黄色い三角の示す方向に押し下げます。

⊙ 結果：ステアリング ホイールが操作パネル上の黄色い三角が示す方向に回ります。

走行とブレーキのテスト

25 機能作動スイッチを押したままにします。

26 コントロール ハンドルを操作パネルの青い矢印の方向に機械が動き始めるまでゆっくりと動かしたあと、ハンドルを中央位置まで戻します。

⊙ 結果：機械が操作パネルの青い矢印の方向に動き、急停止します。

27 機能作動スイッチを押したままにします。

28 コントロール ハンドルを操作パネルの黄色い矢印の方向に機械が動き始めるまでゆっくりと動かしたあと、ハンドルを中央位置まで戻します。

⊙ 結果：機械が操作パネルの黄色い矢印の方向に動き、急停止します。

注記：走行ブレーキは、機械が登ることのできるすべての斜面上で機械を止める能力を持っている必要があります。

走行制限速度のテスト

29 機能作動/速度選択スイッチを押したままにします。作業台を地上約1.83mまで上昇させます。

30 機能作動スイッチを押したままにします。

31 コントロールハンドルをゆっくりとフル走行の位置に動かします。

⊙ 結果：作業台が上昇した状態での最大走行速度は秒速 22 cm を超えてはいけません。

作業台を上昇させた状態の走行速度が秒速 22 cm を超える場合、直ちに故障中の貼り紙をつけて機械の使用を中止してください。

作業台延長リミット スイッチのテスト（搭載されている場合）

注記：GS-2668 には作業台延長リミット スイッチがない機械もあります。このスイッチを確かめるには、作業台の延長部分の先端の下をチェックしてください。このテストはリミット スイッチを搭載していない機械には必要ありません。

32 機能作動/速度選択スイッチを押したままにします。作業台を完全に上昇させます。

33 作業台の延長部分を延長させます。

34 機能作動スイッチを押したままにします。

35 コントロールハンドルをゆっくりとフル走行の位置に動かします。

⊙ 結果：走行機能は作動しません。

走行するには、作業台を下降させるか、または作業台の延長部分を収縮します。

傾斜センサーのテスト

注記：このテストは地上から作業台操作で行ってください。作業台には立たないでください。

36 作業台を完全に下げます。

37 片側の前後のタイヤが 10 cm のブロックまたは留めぐつわの上に乗るように走行します。

38 作業台を地上約 2.4 m まで上昇させます。

2002 年 1 月 1 日以前に製造された機械の場合

⊙ 結果：下降アラームは毎分 180 回のビープ音を鳴らします。

CE およびオーストラリア モデルの場合：走行機能およびリフト機能は作動しません。

手順 40 に進みます。

2001 年 12 月 31 日以降に製造された機械の場合

⊙ 結果：作業台が止まり、傾斜アラームが毎分 180 回のビープ音を鳴らします。

39 走行コントロール ハンドルを青い矢印の方向に動かしたあと、黄色い矢印の方向に動かします。

⊙ 結果：走行機能はどちらの方向にも作動しません。

40 作業台を下げ、機械がブロックから離れるよう走行します。

作業場の点検



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

次のセクションに進む前に、作業場の点検についてよく理解してください。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

作業場を点検することによって、オペレータは作業場が安全に機械を操作するのに適しているかどうかを判断することができます。オペレータは、作業場に機械を移動する前に作業場の点検を行わなければなりません。

オペレータは作業場で起こりうる危険を心得た上で、機械の移動、セットアップ、運転の際に注意を払い、危険を回避してください。

作業場の点検

次の危険な状態に注意し、これらを回避してください。

- 急に低くなっているところ、くぼみ
- でこぼこした道、床の障害物もしくは破片
- 頭上の障害物、高圧送電線
- 危険な場所
- 機械の重量に耐えられない地面
- 風や天候の状態
- 関係作業員以外の人の存在
- その他、起こりうる危険な状態

操作手順



操作を行う必須条件は、以下のとおりです。

☑ 本操作説明書の安全な機械操作の原則を学び、実施してください。

1 危険な状態での使用を避ける。

2 必ず操作前の点検を行う。

3 使用する前に必ず機能テストを行う。

4 作業場を点検する。

5 決められた用途にのみ機械を使用する。

原則

操作手順のセクションでは、機械操作の手順を機能ごとに説明しています。安全規則やオペレータの安全および責務マニュアルの手順に従うことは、オペレータの任務です。

人や工具を空中の作業場まで上げる目的以外で機械を使用することは危険な行為です。

トレーニングを受け認定された担当者のみが、機械を操作することを許可されなければなりません。複数のオペレータが同じ勤務時間内で異なる時間帯に機械を使用する場合、すべてのオペレータが資格を有し、オペレータの安全および責任に関するマニュアルの安全規則と手順にすべて従わなければなりません。すなわち、オペレータが交替するたびに、次のオペレータが機械の操作前に、操作前点検、機能テスト、作業場点検を行う必要があります。

非常停止

地上もしくは作業台操作パネルの赤色非常停止ボタンを押して OFF（オフ）にし、すべての機能を停止します。

非常停止ボタンが押されている状態で作動している機能は修理する必要があります。

操作手順

地上からの操作

1 キースイッチを回して地上操作に切り替えます。

2 地上操作と作業台操作の両方の赤色非常停止ボタンを引いて ON（オン）にします。

3 機械の操作前にバッテリー パックが接続されていることを確認します。

作業台を位置につける

1 機能作動スイッチを、どちらか一方に押したままにします。

2 操作パネルのマークに従って、トグル スイッチを上下に動かします。

走行とステアリング機能は地上操作から操作できません。

作業台からの操作

1 キースイッチを回して作業台操作に切り替えます。

2 地上操作と作業台操作の両方の赤色非常停止ボタンを引いて ON（オン）にします。

3 機械の操作前にバッテリー パックが接続されていることを確認します。

作業台を位置につける

1 機能作動/速度選択スイッチを押したままにします。

2 作業台上昇/下降機能トグル スイッチを走行方向に作動させます。

ステアリング

1 機能作動スイッチを押したままにします。

2 ステアリング ホイールをコントロール ハンドルの先端にあるサム ロッカー スイッチで回します。

走行

1 機能作動スイッチを押したままにします。

2 速度を上げるには、次の操作を行います。コントロール ハンドルを中心の位置からゆっくりと動かします。

速度を下げるには、次の操作を行います。コントロール ハンドルを中心の位置に向かってゆっくりと動かします。

停止するには、次の操作を行います。コントロールハンドルを中心に戻すか、または、機能作動スイッチを離します。

作業台操作パネルと作業台の色別された方向矢印を使って、機械の進む方向を確認してください。

作業台が上昇した状態では走行スピードが制限されています。

バッテリーの状態は機械の性能に影響します。バッテリー充電指示ランプが点灯すると、機械の走行速度は制限され、リフト機能は無効になります。

走行選択スイッチ



傾斜面上の機械シンボル：
傾斜に備えた狭範囲操作

作業台の延長と収縮（手動での作業台延長）

1 作業台の延長ロックハンドルを水平な位置になるまで持ち上げます。

2 作業台の延長ロックハンドルを押し、作業台を目的の位置まで延長します。

作業台を延長している時は、作業台の延長部分に立たないでください。

3 作業台延長部ロックハンドルを下げます。

GS-2668DC モデル: 作業台が延長され、6.1 m 以上高く上昇している場合には、作業台延長リミットスイッチ（搭載されている場合）は走行機能を無効にします。機械を走行させるには、作業台を下げるか、作業台の延長部分を収縮します。

GS-3268DC モデル: 作業台が延長され、7.9 m より高く上昇している場合には、作業台延長リミット スイッチは走行機能を無効にします。機械を走行させるには、作業台を下げるか、作業台の延長部分を収縮します。

作業台の延長と収縮（電源利用での作業台延長 - オプション）

1 延長/収縮作動ボタンを押したままにします。

2 コントロール ハンドルを青色の方向に動かし作業台を延長させるか、または黄色い方向に動かし作業台を収縮させます。

GS-2668DC モデル: 作業台が延長され、6.1 m 以上高く上昇している場合には、作業台延長リミットスイッチ（搭載されている場合）は走行機能を無効にします。機械を走行させるには、作業台を下げるか、作業台の延長部分を収縮します。

GS-3268DC モデル: 作業台が延長され、7.9 m より高く上昇している場合には、作業台延長リミット スイッチは走行機能を無効にします。機械を走行させるには、作業台を下げるか、作業台の延長部分を収縮します。

コントローラを使った地上からの操作

オペレータ、機械、固定された物体の間に安全な距離を保ってください。

コントローラを使う際、機械が走行する方向に注意してください。

使用後の注意

1 安定した水平な地面で、障害物がなく、人や車の往来のない、安全な駐車場所を選びます。

2 作業台を下げます。

3 キースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、関係者以外による使用を避けるためキーを取り外します。

4 輪止めをかまします。

5 バッテリーを充電します。

操作手順



バッテリーと充電器の操作手順

必ず以下に従うこと。

- ☑ 外部充電器またはブースターバッテリーを使用しないでください。
- ☑ よく換気された場所でバッテリーを充電してください。
- ☑ 充電器に表示されている適切な AC 入力電圧で充電してください。
- ☑ Genie 承認のバッテリーと充電器を使用してください。

バッテリーの充電

1 充電前にバッテリーが接続されていることを確認します。

2 バッテリーのコンパートメントを開きます。充電中はコンパートメントを開いたままにします。

3 バッテリー通気孔のキャップを外し、バッテリー液の量をチェックします。必要に応じて、プレートが隠れる程度に蒸留水を入れます。充電の前には液を入れすぎないでください。

4 バッテリー通気孔のキャップを再び取り付けます。

5 接地されている AC 回路に充電器を接続します。

6 充電器をオンにします。

7 バッテリーが完全に充電されると、充電器に表示されます。

8 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリー チューブの底に蒸留水を補給します。このときに入れすぎないようにしてください。

乾式バッテリーの液注入と充電の手順

1 バッテリー通気孔のキャップを外し、バッテリー通気孔開口部のプラスチックシールを取り除きます。

2 それぞれのセルに、プレートが隠れる程度にバッテリー液（電解液）を入れます。

バッテリー充電のサイクルが終了するまでは、満タンまで入れないでください。入れすぎると、充電中にバッテリー液があふれることがあります。バッテリー液がこぼれた場合は重曹と水を使って中和してください。

3 バッテリー通気孔のキャップを取り付け直します。

4 バッテリーを充電します。

5 充電が終了したらバッテリー液の量をチェックします。必要に応じてバッテリーチューブの底に蒸留水を補給します。このときに入れすぎないようにしてください。

輸送手順



必ず以下に従うこと。

- ☑ クレーンで機械を持ち上げるときは、常識的な判断と手順をもって機械の動きをコントロールしてください。
- ☑ 輸送車両は水平な地面に駐車してください。
- ☑ 機械を載せる際は、輸送車両を動かないように固定してください。
- ☑ 車両の積載荷重量、積載面、チェーンやストラップが、機械の重量に十分に耐えうるものであることを確認してください。「仕様」のセクションを参照してください。
- ☑ ブレーキを解除する場合は、機械が水平な地面に止められているか、もしくは固定されていなければなりません。

輸送用トラックあるいはトレーラーへの固定

輸送する場合は必ず前もって機械に輪止めをかましてください。

シャーシの荷締め箇所を使って輸送車両へ固定してください。

チェーンやストラップは、積載荷重量に十分耐えうるものを使用してください。

輸送の前にキースイッチを OFF（オフ）の位置に回し、キーを取り外してください。

緩んでいたり、固定されていない箇所がないか、機械全体を点検します。

ブレーキ解除操作

1 機械が動かないよう輪止めをかましてください。

2 シャーシの荷締め箇所にウィンチラインがしっかりと固定され、軌道に障害物が無いことを確認します。

3 ブレーキ解除ノブを半時計回りに回して、ブレーキ弁を開けます。

4 ブレーキ解除ポンプノブを上下に動かしてください。

機械を載せた後には次を行います。

1 機械が動かないよう輪止めをかましてください。

2 ブレーキ解除ノブを時計回りに回して、ブレーキをリセットします。

Genie GS-2668DC あるいは GS-3268DC の牽引は推奨しません。牽引しなければならない場合は、時速 3.2 km を超えないでください。

ステッカー

ステッカーの点検

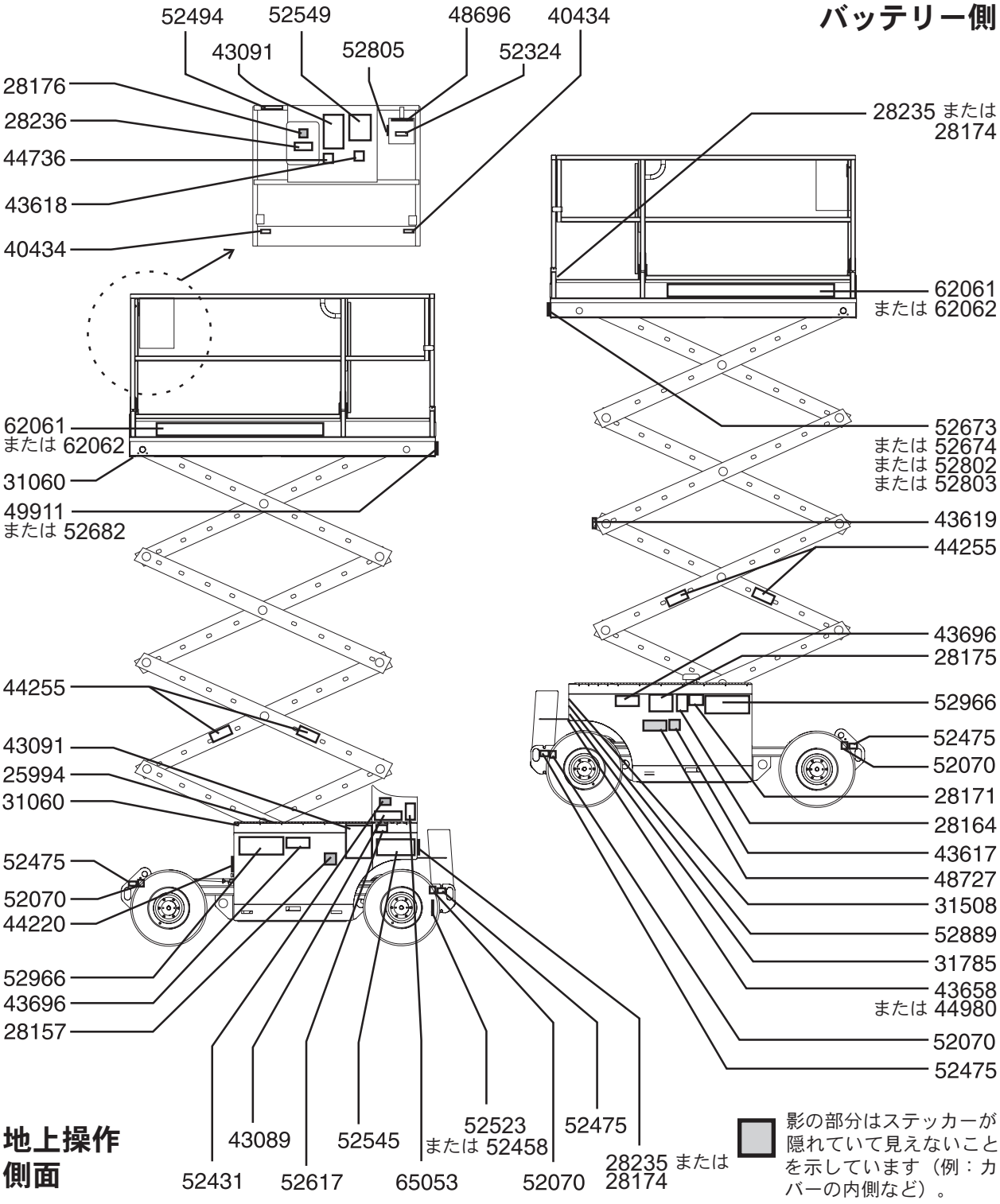
次ページの絵を見て、ステッカーの文字が読める状態で所定の位置に貼られていることを確認してください。

下記は、番号順に並べられたステッカーの数量と詳細です。

品番	説明	数量
25994JA	要注意 – 部品の損傷	1
28157JA	ラベル – Dexron	1
28164JA	注意 – 危険物質	1
28171	ラベル – 禁煙	1
28174	作業台への電力 230V	2
28175JA	要注意 – コンパートメントへのアクセス	1
28176JA	注意 – 説明書の不備	1
28235	作業台への電力、115V	2
28236JA	警告 – 必ずお読みください . . .	1
31060JA	危険 – リミット スイッチを改造しないでください	2
31508JA	注意 – 充電器への電力	1
31785JA	注意 – 充電器手順	1
40434	ラベル – 安全帯固定箇所	2
43089JA	注意 – 操作手順 – 地上	1
43091JA	危険 – 安全上の規則	2
43617JA	危険 – 転倒	1
43618	ラベル – 方向矢印	1
43619JA	ラベル – 安全アーム	1
43658	ラベル – 充電器への電力 – 230V	1
43696JA	危険 – 感電の危険	2
44220JA	危険/注意 – ブレーキ解除安全および操作手順	1
44255JA	危険 – 挟まる危険	4
44736JA	危険 – 傾斜アラーム	1
44980	ラベル – 充電器への電力 – 115V	1
48696	作業台操作パネル、DC モデル	1
48727JA	危険 – バッテリーの安全	1

品番	説明	数量
49911JA	注意 – 最大積載量 567/136 kg – GS-2668 RT および DC	1
52070JA	注意 – タイヤ仕様	4
52324JA	ラベル – 上昇/下降および機能作動	1
52431JA	ラベル – 地上操作パネル	1
52458	シリアルプレート – CE	1
52475	ラベル – 輸送用の荷締め	4
52494JA	要注意 – 挟まる危険 – 手摺り	1
52523	シリアルプレート – ANSI および CSA	1
52545JA	地上操作パネル	1
52549JA	注意 – 操作手順 – 作業台	1
52617JA	ラベル – 手動下降バルブ	1
52673JA	注意 – 最大側方圧力、ANSI および CSA – GS-2668 RT および DC	1
52674JA	注意 – 最大側方圧力、CE – GS-2668 RT および DC	1
52682JA	注意 – 最大積載量 454/136 kg – GS-3268 RT および DC	1
52802JA	注意 – 最大側方圧力、ANSI および CSA – GS-3268 RT および DC	1
52803JA	注意 – 最大側方圧力、CE – GS-3268 RT および DC	1
52805JA	注意 – 作業台延長カットアウト – GS-3268 RT および DC	1
52889JA	注意 – バッテリー接続図	1
52966	外装 – 4 x 2	2
62061	外装 – Genie GS-2668DC	2
62062	外装 – Genie GS-3268DC	2
65053JA	ラベル – 故障コード	1

ステッカー


バッテリー側
52494
52549
48696
40434
43091
52805
52324
28176
28236
44736
43618
40434
28235 または 28174
62061 または 62062
62061 または 62062
31060
49911 または 52682
52673 または 52674 または 52802 または 52803
43619
44255
43696
28175
52966
52475
52070
28171
28164
43617
48727
31508
52889
31785
43658 または 44980
52070
52475
44255
43091
25994
31060
52475
52070
44220
52966
43696
28157
地上操作側面
43089
52545
52523 または 52458
52475
28235 または 28174
52431
52617
65053
52070
影の部分はステッカーが隠れていて見えないことを示しています（例：カバーの内側など）。

仕様

モデル	GS-2668DC
高さ、操作時最大	9.8 m
高さ、作業台最大	7.9 m
高さ、収納時最大 手摺りを上げた状態	2.34 m
高さ、収納時最大 手摺りを下げた状態	1.64 m
高さ、収納時最大 手摺りなし	1.18 m
高さ、手摺り	1.02 m
幅	1.73 m
長さ、作業台収縮時	2.67 m
長さ、作業台延長時	4.2 m
最大積載荷重	567 kg
ホイールベース	1.85 m
旋回半径（外側）	3.68 m
旋回半径（内側）	1.52 m
最低地上高	19 cm
重量 （機械の重量は、オプション構成により異なります。）	シリアルプレートを参照
登坂能力	30 %
機械による騒音 標準的な作業場での最大音量（騒音レベル）	>80 dB
電源	バッテリー 8 個、350AH
操作パネル	比例
作業台 AC コンセント	標準

最大油圧力（機能）	241 バール
タイヤ サイズ	26 x 12 x 12
作業台寸法	
作業台奥行き x 幅	2.5 x 1.55 m
作業台延長部長さ	1.52 m
走行速度	
収納時、最大	時速 5.3 km
作業台上昇時、最大	時速 0.8 km 12.2 m/54.6 秒
床荷重表	
GVW + 許容荷重	3,674 kg
最大軸荷重	1,868 kg
最大輪荷重	934 kg
タイヤごとの局部圧力	6.04 kg/cm^2 592 kPa
車体使用面積当りの圧力	7.56 kPa

注記：床荷重表は概算値であり、オプションによる構成の違いを考慮したものではありません。安全上の要素を考慮して使用してください。

Genie では製品の改良を重ねていくことを方針としています。
製品の仕様は予告なく変更することがあります。

仕様

モデル	GS-3268DC
高さ、操作時最大	11.8 m
高さ、作業台最大	9.8 m
高さ、収納時最大 手摺を上げた状態	2.46 m
高さ、収納時最大 手摺りを下げた状態	1.77 m
高さ、収納時最大 手摺りなし	1.31 m
高さ、手摺り	1.02 m
幅	1.73 m
長さ、作業台収縮時	2.67 m
長さ、作業台延長時	4.2 m
最大積載荷重	454 kg
ホイールベース	1.85 m
旋回半径（外側）	3.68 m
旋回半径（内側）	1.52 m
最低地上高	19 cm
重量 （機械の重量は、オプション構成により異なります。）	シリアルプレートを参照
登坂能力	25 %
機械による騒音 標準的な作業場での最大音量（騒音レベル）	>80 dB
電源	バッテリー 8 個、350AH
操作パネル	比例
作業台 AC コンセント	標準
最大油圧力 (機能)	241 バール
タイヤ サイズ	26 x 12 x 12
作業台寸法	
作業台奥行き x 幅	2.5 x 1.5 m
作業台延長部長さ	1.5 m
走行速度	
収納時、最大	時速 5.3 km
作業台上昇時、最大	時速 0.8 km 12.2 m/54.6 秒
床荷重表	
GVW + 許容荷重	3,892 kg
最大軸荷重	1,787 kg
最大輪荷重	893 kg
タイヤごとの局部圧力	5.78 kg/cm^2 566 kPa
車体使用面積当りの圧力	8.29 kPa

注記：床荷重表は概算値であり、オプションによる構成の違いを考慮したものではありません。安全上の要素を考慮して使用してください。